

## 巻頭の辞

駒沢大学文学部長 杉岡規道

駒沢大学文学部は、駒沢大学が昭和二十四年、新学制に依る総合大学として発足した時に、仏教学部、商経学部と共に、その構成学部として開設されたものである。しかし、その淵源は、駒沢大学自身と同じく、遠く、江戸時代初期の吉祥寺会下の学寮、梅檀林（天正十九年、江戸神田台に建てられ、明暦の火災に焼失、吉祥寺と共に駒込に移転、爾来、明治の初めに曹洞宗専門本校となり、同十五年曹洞宗大学林設立迄存続）に、溯ることができるであろう。何となれば、そこでは、宗乗や余乗の他に、外典として和漢の典籍が、攻究教授されていたのであり、殊に学寮時代の中期以後は、漢学が次第に重ぜられるに至り、天保の頃は、最早漢学万能の觀を呈していたといわれるからである。梅檀林が幕府の昌平黌と學術を競ったといわれるのも、恐らくその頃であつたろう。

明治十五年十月十五日、東京の麻布日ヶ窪に、曹洞宗僧侶養成の最高機関として、曹洞宗大学林が創立された。そして、同三十八年には、学校令に依る専門学校として「曹洞宗大学」と改められ、大正二年に、現在の世田谷区深沢に移された。此の曹洞宗大学に於ては、法令の定めと時勢の影響で、所謂普通教科が大幅に増加された。

更に大正十四年には、大学令による大学に昇格して、「駒沢大学」となり、仏教学科、東洋学科、人文学科の三学科が出来、曹洞宗僧侶以外の一般学生にも開放された。そして専門部として、仏教及び高等師範科（国漢、

地歴)が併設された。かくして、国語、漢文、地理、歴史、英米文学、が宗乗の補助学科としてでなく、独立した学問として研究、教授されるに至った。卒業生は、哲学、国語、漢文、地歴、英語等それぞれ専門科目の中等及び高等学校教員免許状を交付されるようになった。又諸教授によって史学、哲学、社会学、文学、語学等の分野に於ける幾多の優れた論文が駒沢大学に提出され、学位を授与された。

前記の通り、旧制駒沢大学は昭和二十四年新学制により、三学部より成る総合大学として発足した。文学部は当初より哲学、国文学、中国文学、英米文学、地理歴史学及び社会学の六学科を擁し、今日に至っている。これは旧制駒沢大学の東洋学科、人文学科、専門部高等師範科の延長或は分化ということも出来よう

毎年、本学部所属の教授諸氏の研究論文を編輯して駒沢大学文学部紀要が刊行されて来たのであるが、本年は曹洞宗大学林が創立されてから八十年目にあたるので、その記念号とすることになり、例年より執筆者の数も増加された。所収の諸労作は、何れも各筆者の尊い研鑽の結実であり、わが文学部の学的水準の高さを充分に示すものと確信する。此の記念号が、駒沢大学創立八十周年を飾る、好箇の金字塔の一つとなり、且つ又、それぞれの学界に長く貢献することを切に祈る次第である。

昭和三十七年九月